

食 器洗いには台所用せっけん水を使っています。泡が立たないので、すすぎが早くできます。

流 し台の足元にバケツを並べています。野菜を洗うときなど使った水は流さずに、順々にバケツにためていきます。植木の水まきなどにはこれで十分です。

台 所用は45ℓのポリバケツひとつで間に合うことが分かりました。水が出るときも鉛筆の大きさくらいの水で皿などを洗っています。水道料金の明細書を見て節水効果を数字で実感しました。料金もずいぶん安くなりましたよ。

P TAの広報で節水の知恵をアンケートしました。多かったのは、弁当箱の中にラップを敷く、レジャー用の冷水筒を蛇口代わりに使う、無駄な出費をしないよう節水の道具は台所用品を代用する、などでした。皆さんそれぞれ頑張っています。

水 をたくさん使うめん料理は控えています。水が出るときもトイレのタンクは洗濯水を再利用。新しい水はもったいないですから。

平成6～7年の大渇水ときはこんな意見が寄せられました



本市は、平成6年夏以降の異常渇水により、同年8月1日から翌年4月25日まで、実に268日という長い期間、給水制限を余儀なくされました。そんな厳しい状況の中でも、本紙には市民の皆さんから節水に関する力強いご意見をたくさんいただきました。その一部をご紹介します。

共 働きで、小学生の子どもが2人。時間給水ときには帰宅してから食事の準備、洗濯を急ぎ、水が出るときにすべての家事を済ませます。計画的に献立を考え、皿の数を減らすなどの工夫をしています。主人も協力的です。

7 人家族の洗濯物は毎日山のようにです。ダムの貯水率を考えると、今までどおり全部を全自動洗濯機に頼るわけにはいきません。お風呂の残り湯をたらいに入れ、手洗いを始めました。最後のすすぎだけは洗濯機を使いますが、驚くほど節水できます。

水 をためすぎたら何にもなりませんから、とにかく蛇口から出る水量を減らしています。風呂の残り湯は洗濯やトイレへ、米のとき汁は庭木に使うなど水の再利用に努めています。時々国見の湧き水などをくみにいきます。この渇水を市民みんなで乗り切らなければと思っています。



お 母さんが水運びで疲れているので、お風呂の掃除はぼく（当時小学校4年生）の仕事です。早くダムに水がたまってほしいです。毎日、日記に水のことを書いています。

わたしたちはこのように取り組みました!

①石木ダム事業

本市の水源は、小規模なダムと流量が不安定な河川からの取水に頼っており、慢性的に水不足の状況で、度々渇水に見舞われています。

本市では、このような状況を抜本的に解決するため、昭和50年度から、県との共同事業として、隣接する東彼杵郡川棚町の川棚川水系石木川に石木ダムの建設を進め、将来にわたる市民の皆様への安定給水の確保を目指しています。

石木ダムは、治水、水の安定供給のための利水、流水の正常な機能の維持を目的とした多目的ダムで、完成すれば本市の水道用水として、一日最大40,000m³の取水が可能となります。現在まで対象地権者の約8割の皆様にご理解いただいております。今後も早期着工を目指し全力を尽くして取り組んでいきます。

中期対策

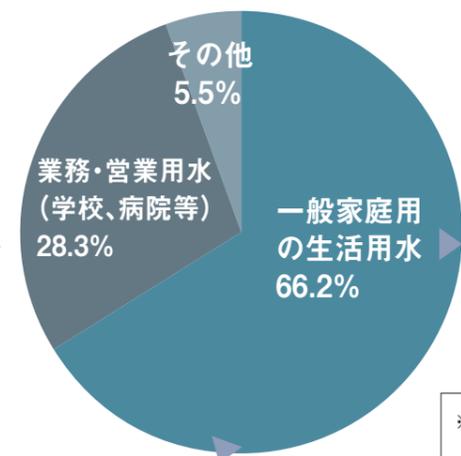
⑤下の原ダムの再開発事業（平成十八年度完成）

既存ダムの貯水量の容量を増加させるため、五・九mかさ上げする再開発に取り組みました。水道事業の変更認可（平成十二年十月）と水利権許可（平成十三年一月）の後、平成十三年八月から設計、工事などを行いました。これにより八十六万三千m³（約十分日分）の増量を行うことができました。

④菰田導水増圧施設の建設（平成九年八月完成）

菰田ダムからの導水能力の向上のため、導水管に増圧ポンプを設置し、既存能力に日量七千m³を増強し、日量二万五千m³の導水が可能となりました。これにより佐々川からの取水が、これまで以上に有効活用できるようになりました。 ※導水とは原水（浄化処理する前の水）を取水施設から浄水場まで送ること。

本市での水の使われ方



本市の節水効果を高めるためには、市民の皆さんの家庭でのご協力が欠かせません。

※「平成16年度佐世保市用途別給水量調査」より抜粋

家庭での水の使われ方と節水方法

5位 洗車、洗顔、その他 8%

水を流しながらの洗車で約240ℓ
洗顔、歯磨きなど1分間出しっぱなしで約6ℓ

- 洗車は風呂の残り湯などを再利用しましょう。バケツを使った汲み洗いなら約50ℓで足りる。
- 洗顔や歯磨きは洗面器やコップに必要量をためましょう。

4位 洗濯 17%

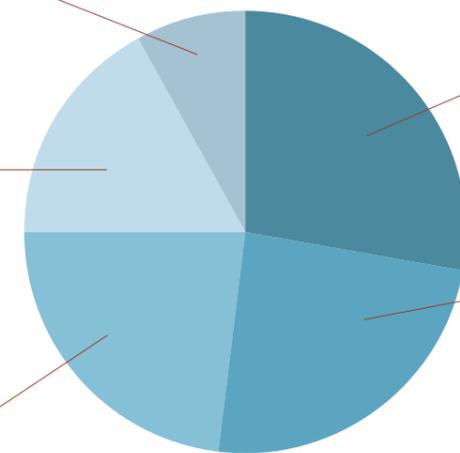
全自動の洗濯機で1回の洗濯に約150ℓ

- 洗濯物はまとめて洗いましょう。
- すすぎ洗いの残り水はトイレなどにも利用しましょう。

3位 炊事 23%

流しっぱなしの食器洗いで1回に約100ℓ

- ため洗いなら20ℓ程度で済みます。
- 洗剤は少なめに洗いましょう。



1位 トイレ 28%

水洗トイレの大的レバーで約8ℓ

- トイレのレバーは用途に応じて大小を使い分けましょう。

2位 風呂 24%

一般家庭の風呂の量は約250ℓ
シャワーの出しっぱなし3分間で約36ℓ

- ためる量を少なくしたり、入る回数を減らしたりしましょう。
- 残り湯は洗濯、トイレ、清掃などに再利用しましょう。

※家庭での水の使われ方は「平成14年度一般家庭水使用目的別実態調査（東京都水道局）」より抜粋

これまでの取り組み

短期対策

①川棚川からの取水施設（平成八年七月完成）

川棚川の流量が豊富なときには、これまでの日量一万五千m³に、五千m³を加え、最大日量二万m³が取水可能となりました。

②小森川からの取水施設（平成九年三月完成）

可動せき（貯水量二万六千m³）を建設し、県事業による河床掘削（貯水量六千m³）などによって、これまで以上に取水安定化が図られました。

③南北融通施設（平成九年八月完成）

南部水系と北部水系との選択給水が可能となる送配水施設（日量六千m³）を建設したことにより、南部と北部の水源状況に応じて水系を選択し、一定量を融通し合うことが可能となりました。

④菰田導水増圧施設の建設（平成九年八月完成）

菰田ダムからの導水能力の向上のため、導水管に増圧ポンプを設置し、既存能力に日量七千m³を増強し、日量二万五千m³の導水が可能となりました。これにより佐々川からの取水が、これまで以上に有効活用できるようになりました。 ※導水とは原水（浄化処理する前の水）を取水施設から浄水場まで送ること。

中期対策

⑤下の原ダムの再開発事業（平成十八年度完成）

既存ダムの貯水量の容量を増加させるため、五・九mかさ上げする再開発に取り組みました。水道事業の変更認可（平成十二年十月）と水利権許可（平成十三年一月）の後、平成十三年八月から設計、工事などを行いました。これにより八十六万三千m³（約十分日分）の増量を行うことができました。